



WORLD
FEDERALIST MOVEMENT
OF JAPAN

世界連邦

2020年7月28日

NEWSLETTER 第660号

www.wfmjapan.org

発行所 世界連邦運動協会 〒107-0052 東京都港区赤坂7-2-17 赤坂中央マンション303
電話 (03) 6438-9442 FAX (03) 6438-9443 E-mail info@wfmjapan.org wfmjapan

購読 郵便振替 00190-6-29964
1部100円(年6回 奇数月28日1回発行)
購読料は会費・寄付金に含めて収納

SDGs推進に向け連携協定締結 世界連邦ユースフォーラムが江戸川区と

2020年5月27日(水)、世界連邦運動協会ユースフォーラム支部(世界連邦ユースフォーラム)は、東京都江戸川区および国連の友アジアパシフィック(FOUNAP)とともに、持続可能な開発目標(SDGs)の達成を推進するため、三者連携協定を締結した。同日15時から、斉藤猛江戸川区長と、世界連邦ユースフォーラム代表者の筆者(谷本真邦)、アンワルル・K. チョードリ FOUNAP 会長(元国連事務次長)の代理の金森孝弘理事が出席し、締結式を行った。協定書に署名後、連携協定締結にあたっての会見をした。

SDGsは、国際連合が2015年に採択した地球規模の目標である。これには「誰一人取り残さない」というモットーがあり、これを実現するためには、世界レベル・国家レベルの取り組みだけではなく、地域社会との取り組みも必要である。世界連邦ユースフォーラムでは、これまでも日本政府の協力のもと、地方自治体とともにSDGs推進のための取り組みをしてきた。たとえば、

いくつかの地方自治体の首長に、国際連合NY本部における政府代表部大使との会談や、SDGs推進会議などに参加していただいた。

福島県知事を国際連合本部にご招待した際には、国際社会に復興の報告をしていただくとともに、福島県の子供たちにも国際連合のイベントに参加してもらった。静岡県静岡市では、市をあげてSDGsウィークの開催を実現、国際連合のSDGs推進キャンペーンにおけるアジアのハブ都市に選定されたりした。福井県鯖江市では、地元ケーブルTVの製作や、市長をはじめ市職員へのSDGs推進のための研修などを実施し、メガネフレームという地域産業を振興しつつ、政府のSDGs未来都市および自治体モデル事業にも選定された。

今回提携した江戸川区は70万人都市であり、都内でも新宿区と並んで多くの外国人が居住しており、特にインド人らは23区内で最も多いという、グローバルな都市でもある。これまでもSDGsに関心が

あったとのことで、「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域共生社会の実現」を目指し、ユニバーサルなまちづくりと心のバリアフリーに取り組んでいる。また江戸川区は、現在はCovid-19のため延期になっている東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、パラリンピックの全22競技が体験できる施設整備を進めるなど、障がいの有無に関わらず、子どもから大人まですべての方がスポーツを楽しめるまちづくりもしている。世界で猛威をふるっているCovid-19の対策では、医師会らと連携し、いち早くPCR検査センターや、区立ホテルを活用した軽症者用の療養施設を開設、児童を預かる一時保護所のサテライトも付設した。

斉藤猛区長は、世界連邦ユースフォーラムとの提携が決まったことがきっかけで、5月12日開催の世界連邦日本国会委員会総会にゲストスピーカーとして参加し、このような取り組みを自治体のケーススタディとして発表した。また、国際連合の理念と活動について啓発するため、これらの活動をバックアップしていただいているアンワルル・K. チョードリ FOUNAP 会長からは、「これからの社会は、自治体や市民社会のローカル力が牽引し、グローバルな課題を解決する時代です。今後、江戸川区が、ローカル力を発揮し、発信する拠点となることを、心から望んでいます」というメッセージが届いた。この協定をきっかけとして、タワーホール船堀という区の施設にSDGs推進センターを開設することも決定された。



協定書に署名した三者、左から筆者(世界連邦・谷本真邦)、斉藤猛江戸川区長、金森孝裕FOUNAP理事

以前にも述べたように、SDGs の達成目的は、現在猛威を振っている感染症の対策をはじめ、経済・生活格差の解消、環境問題、法の支配、そして世界平和など、

多くの地球規模課題を解決することにある。これは世界連邦の実現のための地ならしとして不可欠なものである。世界連邦ユースフォーラムは、江戸川区の SDGs 推

進に貢献し、これに大きく広がりを持たせるため、様々な計画を実現していきたいと考えている。

(谷本 真邦)

世界連邦運動協会近畿協議会が総会を開催



6月9日午後2時より金光教泉尾教会内の人類共栄会会議室において世界連邦運動協会近畿協議会の総会が行われた。近畿では11の支部が近畿協議会を構成して情報共有・連携強化に努めている。

まず協議会の三宅光雄会長から「新型コロナウイルス感染症の関係上、少人数で、短時間で開催されることになりました」との挨拶があった。続いて、11月開催予定の第36回世界連邦日本大会in大阪に関して、新型コロナの影響で準備もままならず、参加者にとっても外出に不安を覚えることも考慮し、中止することで準備委員の意見が一致したことについて、同大会実行副委員長の筆者(平岡五城)から説明があった。そして大阪愛善会支部の小佐々明夫副支部長が議長に選出され、総会議事が行われた。役員人事、前年度活動報告・決算、今年度活動方針・予算案が原案の通り承認された。

総会議事終了後、世界連邦日本国会委員会の谷本真邦事務局次長による講演が行われ、国会委員会の活動報告に加え、いま大きな問題となっている新型コロナ感染症に関連してWHO(世界保健機関)のことが話題にされた。その概要は以下の通りである。

まず新型コロナ感染症によって亡くなった方々のご冥福と、感染して闘病中の方々の一日も早いご回復を心からお祈り申し上げます。

さて、世界連邦日本国会委員会は、昨年

創設70周年を迎えた。これを機会に国会にも有識者諮問機関を設置するべきと考え、グローバル・ガバナンス推進委員会を設置した。その中に複数の政策的な分科会を置いて審議会を何度も開催し、今年4月には諮問の答申・提言書を、全体の座長を務める長谷川祐弘元国際連合事務総長特別代表から世界連邦日本国会委員会の衛藤征士郎会長・中川正春事務総長に手交され、5月の同委員会総会では各党代表者からご意見をいただいた。また昨年秋には創設70周年記念大会を開催してSDGs推進をテーマに記念シンポジウムを実施した。今年度の総会では今後もこれらの機関を継続することを決定し、有効に活用していきたいと考えている。

しかし、今年に入ってから新型コロナによるパンデミックが起こり大きな問題になっている。こういった感染症の問題は突然起こったわけではなく、従来から危険視されていたことである。私たちは感染症対策もあって国際連帯税の導入を望んでいるが、実現できていないのが残念だ。ワクチンや治療薬の開発にしても、こういう時こそ世界が連帯すべきなのだが、逆に世界に分断が起こっている。対策の中心となるべきWHOは、アメリカ合衆国から中国寄りと批判され脱退を表明されている。もちろんWHOは大きな国際機関であり、内部では色々な考えがある。私は例年ジュネーブのWHO本部の会議に参加しているが、特定の国家に偏ることに批判的な人や、世界全体のことを公正に考えている人

も多いことを実感しているので、単純にステレオタイプで見てはいけないと思う。とはいえ国際機関というものは、やはり主権国家の寄り合いの組織なので、ドナー国に影響される面がないとは言えない。そのため、やはり改革強化は必要である。こういったなか2020年5月18日～19日に第73回WHA、つまりWHOの総会がビデオ総会という形で開催された。これに際し、我が国を含む複数国が共同提案国として新型コロナウイルス感染症対応に係る決議案を提出し、正式採択された。この決議の主要なポイントは、以下のようにまとめられる。

- ・WHOの主導的役割を確認しつつ国際社会が一致団結して対応する重要性を確認。
- ・新型コロナウイルス感染症対策に必要なあらゆる医療資源が平等に行き渡るよう努力。
- ・新型コロナウイルス感染症流行下における人や医療機器及び医薬品の移動に対する制限が一時的かつ限定的であることを保証。
- ・公衆衛生上必要なサービスを絶え間なく安全に供給する保健システムの維持。
- ・WHOや各国の新型コロナウイルス感染症対策における知見
- ・データ等の適切な共有。
- ・国民への客観的科学的根拠に基づく包括的なデータや情報の提供。
- ・医療従事者等の最前線で働く人々への支援。
- ・ワンヘルスアプローチに基づき各国や国際獣疫事務局、国連食糧農業機関と協力し中間宿主の役割を含む人畜共通感染症ウイルスの発生源と人体への感染経路の特定。
- ・WHOを中心とした対応に関して最も適切な早期に公平で独立した包括的な検証を開始することをWHO事務局長に要請する。

また日本政府代表の加藤勝信厚生労働

大臣の演説があり、日本の貢献として WHO の SPRP(新型コロナウイルスのための戦略的準備と対応の計画) へ 7600 万 4000 米ドル、さらに CEPI(感染症流行対策イノベーション連合) へ 9600 万米ドル、Gavi(ワクチンと予防接種のための世界同盟) へ 1 億米ドル、合計日本円で約 300 億円の拠出が決定したことが発表された。さ

らに大臣は、中国寄りと言われている WHO の総会であえて台湾の成果も演説内でアピールしたと述べた。

谷本氏は、大臣演説原稿を含め厚生労働省大臣官房国際課から取寄せた資料を配布して、これらの説明をされた。今年の近畿協議会総会は、短時間の開催であっ

たため講演も 15 分であった。三宅会長からは「短時間の中で大変内容の濃い講演であった」との感想が述べられたが、出席者からは、15 分というのは短すぎ、もっと長く講演してほしいとの声もあった。

(平岡 五城)

グローバル連帯税フォーラムの講演会 寺島実郎氏を講師に迎え —ポストコロナの針路：政策科学としての国際連帯税—

6 月 15 日午後 5 時より参議院議員会館 101 会議室にて、「グローバル連帯税フォーラム」(グローバル連帯税導入を目指す市民・NGO により構成、世界連邦運動協会も加盟、以下「フォーラム」と略称)主催「国際連帯税創設を目指す議員連盟」後援により、寺島実郎氏を講師とする講演会「ポストコロナの針路：新しい政策科学としての国際連帯税」が開催された。国会議員 29 人、代理 13 人、市民約 40 人が参加した。

世界連邦運動協会執行理事・フォーラム理事の谷本真邦氏による司会で開会し、フォーラム代表理事の田中徹二氏、連帯税議連の衛藤征士郎会長による挨拶に続き、寺島氏による講演が行われた。以下はその概略である。



寺島実郎氏

今、ウィルスと共生する覚悟が必要である。地球の歴史が 46 億年、ウィルスの

歴史が 30 億年であることに比べ、人類は新参者に過ぎない。

2018 年インフルエンザで 3 千人が亡くなった。19 万人が広い意味での肺炎で亡くなり、不慮の事故で 41,238 人が亡くなっている。その中には側溝に落ちて死んだ 1,500 人も含まれている。もちをのどに詰まらせて死んだ約 3 千人も含まれているが、果たして新型コロナによる死者数はそこまで到達するだろうか。決して無視して良いということではないが、物事はバランス感覚で見ることがある。

「42 万人が死ぬ」という予測は単に数理モデルによるもので、たとえばアメリカは極端な格差社会であり、健康保険もないということなども含めて考える必要がある。日本のメディアには科学ジャーナリズムがなく、単に世間の空気を増幅させてしまっている。「42 万人が死ぬ」「8 割人との接触を減らすべきだ」という報道で日本中が凍り付いてしまった。

世界の GDP に占める日本の割合は平成直前の 1988 年に 16% だったものが、平成の終わりには 6% になってしまった。一方、日本を除くアジアの GDP は同じ期間に日本の 3 分の 1 から日本の 4 倍にと成長している。コロナの問題は元々あった日本の問題を浮き彫りにしたという面がある。

気がつけばマスクも防護服も海外から買っていた。防災産業をもっと育てるべき

である。エボラのような BSL4(biosafety level 4) の感染症に対応できる研究所は日本には 1 か所しかない。このたび、長崎大に二つめができる。地元の反対もあったが、合意ができ、私も専門家会議に関わることになった。

今、日本に必要なことは、ポストコロナを見据えてルールを形成する側に立つことである。ヨーロッパではイギリスが EU から出ていったおかげで合意形成がしやすくなったという側面がある。日本はその動きをウォッチするとともに、自ら制度設計を行なっていくべきである。国際連帯税は、「グローバル化の恩恵を受けているものが、責任を分担してほしい」というものである。新しいグローバルリスクの制御のためのシステム設計を日本から発信してほしい。

講演後、寺島氏の指名を受け、横浜市立大学の上村雄彦教授が連帯税についてのヨーロッパの最新動向を補足した。また、上村氏は「外務大臣が代わって以後、日本政府が連帯税よりも民間資金を活用しようとしているが、民間資金では規模も小さく、また儲からないことには投資しない」と懸念を示した。その後、参加した国会議員との意見交換が行われ、午後 6 時 40 分頃閉会した。なお、この行事について翌日の東京新聞第 6 面に記事が掲載された。

(塩浜 修)

大地震、感染症 これからの日本には病院船が必要だ

「世界連邦日本国会委員会」の衛藤征士郎会長は、超党派による「病院船・災害時多目的支援船建造推進議員連盟」の会

長でもある。大規模自然災害や感染症はいわば人類共通の敵であり、民族・思想・国家・宗教を超えて人類が一丸となって

対応すべき課題である。大規模自然災害・感染症に対応するための船を建造することは、世界連邦実現のための一歩ともなり

えよう。

以下は、2020 年 3 月 23 日の「毎日新聞ニュースサイト」において衛藤会長が病院船について語ったものを、衛藤事務所の許可を得て転載したものである。

衛藤征士郎・元衆院副議長

日本は海に囲まれた島国で地震大国だ。大地震や大津波で多数の犠牲を出してきたし、これからも必ず起きる。それに備えるために「災害時多目的支援船」つまり病院船が必要だ。

感染症患者の隔離が可能

東日本大震災などで経験したように、大災害時には鉄道や道路などの陸上交通は寸断される。どうしても海からの支援を考えなければならない。その時に内科、外科などの診療科目を備えた「海に浮かぶ総合病院」が役に立つ。

今回の新型コロナウィルスのような感染症にも対応できる、トイレなどを備えた個室を完備し患者の隔離を可能にする。クルーズ船での感染拡大が問題になったが、クルーズ船の設備は感染を阻止するために造られたわけではないし、乗員も訓練を受けていない。うまくいかないのは当然だ。

その点、はじめから隔離を前提に造られ、医療スタッフが完備した病院船があれば、たとえば今後、クルーズ船などで感染症患者が発生した際にも移乗させて隔離できるし、患者も安心できる。

さらに原発事故などの場合の除染機能も必要になるだろう。日本の原発はすべて海沿いにある。これからも大地震や大津波

に伴う原発事故が起きないとは断言できない。その備えも必要だ。

24時間以内に全国どこでも

米海軍が所有している病院船を視察したことがある。約 7 万トンで 1000 床ある。強力な自家発電設備があり、医療廃棄物を処理するための焼却炉もあった。海水を淡水化して生活用水を確保する設備まであった。

平時と有事の運用をうまく使い分けているのが印象的だった。平時は少ない人員で運用し、有事になると登録された医師らが集まる仕組みになっている。

我々が考えているのは、米海軍のちょうど半分、約 3 万 5000 トン、500 床のものだ。1 隻約 250 億円の建造費を想定している。自衛隊ではなく内閣府の所属とし、海上自衛隊や海上保安庁の職員を再任用して運用する。さらに医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護師会などと連携し、災害時に集まってもらう体制を作る。

災害が発生したら少なくとも 24 時間内には現地に到着できなければならない。だから 25 ノット（時速 46.3 キロ）は出せる船が東日本、西日本に 1 隻ずつ、計 2 隻必要だ。港が完備しているとは限らないし、被害を受けていることもあるので、ヘリやホバークラフトも積載しなければならない。

今回もマスクなどで問題になっているように医療品の備蓄の問題があるので、全国に何力所かあらかじめ備蓄倉庫を作っておく必要がある。

平時も有効活用

この問題を語る時にはどうしても費用対

効果、コストが問題になる。2 隻で 500 億円という費用が高いという指摘はある。しかしイタリアのような事態になったら、経済的損失ははかりしれない。いざという時のためのものとしては決して高くない。

平時にも有効活用できる。日本は島国だ。離島もあれば海沿いの交通の不便な場所もある。そういったところに病院船が行けば、どれだけ住民が安心するか。国内だけで運用する必要もない。太平洋の島嶼国などで災害があった時に派遣すれば国際貢献にもなる。

東日本大震災が起きた時に「病院船があったら」と言われた。今回の新型コロナウィルスの問題でもそう言われている。今後 30 年以内に起きる可能性が高いとされる南海トラフ地震が起きた時に病院船があれば必ず役に立つ。また、もし首都直下型地震が起きればどれほどの人命が失われるか。

コストと人命をどう考えるかという問題だと思う。政治家として考えた時にはやはり決断が必要だ。



衛藤征士郎 元衆院副議長。1941 年生まれ。大分県玖珠町長などを経て、1977 年に参院初当選、1983 年に衆院初当選。防衛庁長官、副外相、予算委員長などを歴任。衆院大分 2 区。参院 1 回、衆院 12 回当選。自民党細田派。

竹内睦泰氏追悼講演録 「明治維新に学ぶ世界連邦実現への道」 —— 一人の力で世界は変わる ——

2007 年 2 月 3 日世界連邦東京都連合会新春研修会で講師を務めた竹内睦泰氏が本年 1 月に亡くなった。竹内氏は、有名な大学受験日本史の講師で会員外の立場ながら、世界連邦の応援をしてくれたものだった。竹内氏に哀悼の意を捧げるとともに、新春研修会での講演の一部を以下に掲載する。

私は神主の家に生まれ、歴史に興味を持ちやすい環境で育ちました。風呂に入ると 1 から 100 まで数える代わり、神武・綏靖・

安寧・懿徳・孝昭・孝安・孝霊・孝元……と初代神武天皇から 99 代までの天皇の名前を唱えて風呂からあがるという変わった家でした。おかげで小学校 1 年で歴代天皇名を全て覚えてしまいました。

その後、私は日本史の講師になり、日本の歴史を学び、日本のことを伝えてきたのですが、その延長で世界を見たいという気持ちがあります。今、世界の最大の問題は戦争・テロです。そして、戦争・テロを無くすには根源となる問題があります。それは、他民族との共存、他宗教への理解、そ

して自然との共生だと思います。

そして、他民族との共存、他宗教への理解、自然との共生を考えたとき、この日本こそがそれを実現する雛形ではないかと思うのです。私は池袋や高田馬場に住んでいました。このあたりは外国人が多く住んでおり、夜になると中国語や韓国語が飛び交います。また、インド料理店とパキスタン料理店が隣り合って両方が仲良くしていたりします。世界中がこのようになれば良い、世界中が池袋のように、日本のようになり、他民族との共存、他宗教への理解、

自然との共生を行えば世界は平和になる
と思いました。

日本の近代化にとって、大きな影響を与えたのは、1853 年のペリー来航です。ペリーは日本に来る前にもアジアの各国を回り、船の蒸気機関を見せました。機関室では巨大なタービンがガタンガタンすごい音をたてて動いています。これを見て多くのアジアの国では、「こりゃ、あかん。かなわない」とシュンとなってしまうのです。ペリーは、機関室の様子を見れば、日本人もシュンとなるだろうと思っていました。

ところがこれに対する日本人の反応を見て、ペリーのほうが驚く様子が記録に残っています。「この小人のような野蛮人
たち(日本人のこと)は、腰に長い刀をさし、頭にピストル(ちょんまげのこと)をつけていたのだが……」。

そして、ペリーが驚いたことに、日本人はシュンとはならず、紙と筆を取り出してスケッチを始め、質問を始めたのです。

「これは何の力で動くんだ」「蒸気の力だ」
「蒸気の力って何だ」「沸騰するとやかんのふたが動く、その力だ」

「何を燃やしているんだ」「石炭だ」

「石炭って何だ」「燃える石だ」

「どこにあるんだ」「どこにでもある」

「日本にもあるか」「あるだろう」

「じゃあ同じものを作ってみよう」

凄いものを見たとき「無理だ」と思うのではなく、「すごい、私たちも同じものを真似して作ってみよう」と考えるのが日本人の凄いところ。このプラス思考が大事なのです。日本人が優秀だからではなく、プラス思考があったから、日本人はアジアで近代化にいち早く成功したのです。

私は吉田松陰が好きです。ただし彼は学者としては実は二流です。しかし教育者としては一流でした。彼の塾には遠くから2時間かけて来る者もざらにいました。吉田松陰は終身刑の最中でしたので、塾の外へ出ることはできなかったのです。

彼は最初に牢屋に入った時に、いきなり授業を始めました。彼の授業は面白く、みんなが聞くようになりました。

一人が訊きました。「あなたは確かに良いこと言っているし、わかりやすい。だが、俺たちは終身刑の囚人だ。一生外に出られない。勉強をして何になるのか。」

吉田松陰ははっきりと言いました。「何

かものを知って死ぬのと、知らずに死ぬのでは絶対に違う。」と。

やがて、牢屋のみんなは正座をして講義を聴くようになりました。塾や予備校では、まず「姿勢を正せ」ということを教えます。本当は学校で教えるべきことなのですが。姿勢を正すことはつらいことであるように思えますが、実は長時間の勉強に耐えることができるのが正しい姿勢なのです。肘をついたりしていると長時間の勉強には耐えられません。ついには牢屋の外で牢の番人までもが正座して話を聴くようになりました。

松下村塾には高杉晋作、伊藤俊輔(後の博文)、木戸孝允などが六畳二間にひしめていました。多くの傑出した人物が松下村塾から産まれたので、もっと大きいと思ったかも知れませんが、実は小さな塾だったのです。しかも、ここで教えたのは実は一年くらいでした。

この頃、長州藩は佐幕派に牛耳られており、討幕派は命を狙われていました。木戸孝允も姿をくらましていました。

高杉はまず、奇兵隊の司令官、山県狂介に相談しました。「高杉さん、あなたが奇兵隊をつくったのだからわかるだろう。商人や農民の奇兵隊では武士 4000 人には勝てない」

奇兵隊以外の諸部隊にも高杉は断られました。高杉は弟分の伊藤俊輔が率いる力士隊に望みをかけました。「奇兵隊にも断られたじゃないか。20 人の力士隊で 4000 人の武士に勝てるわけがない。力士隊 20 人の一人一人に妻も子どももいるんだ。それを考えてほしい。」伊藤はこう言って高杉を止めようとしたのですが、高杉晋作はなんと一人で挙兵してしまいました。

長州藩の佐幕派は当然刺客を差し向けます。もうだめか、と思ったとき、「高杉さん、いっしょに死にましよう」と、伊藤俊輔が駆けつけてくれたのです。「おお、俊輔、来てくれたか、よし、二人で死のう。そこへ今度は「おれたちもいっしょに死に

ます」と言って力士隊も駆けつけました。さらに「彼らを見殺しにするな」と言って次々と他の部隊も合流、十分な数がそろくと山県狂介率いる奇兵隊も合流します。

伊藤俊輔は後の初代総理大臣伊藤博文、山県狂介は後の第3代総理大臣山県有朋です。高杉晋作のたった一人の行動が次の一人を動かし、みんなを動かし、やがて彼が長州藩の実権を握って倒幕から明治維新への流れをつくるのです。

明治維新は 300 ある藩を一つにまとめていく過程でした。明治維新の最大のポイントは廃藩置県です。その流れのもとを作り出したのが、吉田松陰の意志であり、そして高杉晋作のたった一人の行動なのです。「一人では何もできない」と考えるのではなく、「一人からでも始めよう」と考えることこそが大切なのです。

塩浜さんがよく一人で駆け回っているのを見ていて、その熱心さに感銘を受けて、私も世界連邦の活動を生徒たちに伝えていきたいと思うようになりました。多くの国が対立する世の中を変え、世界連邦の実現を目指しているわけですが、これも、たった一人の人間が熱く燃え上がったとき、その情熱がまた次の人を動かし、それがまた次の動きにつながっていくという形で必ず実現できることだと思います。一人一人の意識革命によって、世界連邦は必ず実現する!!! そのように私は思っています!!! ご静聴ありがとうございました。

後日談 私(塩浜)が世界連邦の講演を頼まれた時、「竹内先生の講演にあったペリーに関するくだりを使いたい。使って良いですか」と許可を求めたところ、「世の中のためになるんだよね? どうぞお使い下さい」と言ってくれた。そんな心意気に感謝し、ご冥福をお祈りします。



暑中お見舞い申し上げます。

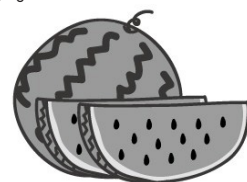
今後とも世界連邦運動をよろしく願ひいたします。

令和二年 盛夏

世界連邦・北海道 代表 松藤日出男 副代表 日色無人 事務局長 押野善彦 次長 坂崎邦江	NPO法人 神戸平和研究所 理事長 杉 浩二	暑中お見舞い申し上げます。 世界連邦運動協会会長代行 中野 寛成 twitter @nakanokansei	世界連邦近畿協議会 会長 三宅 光雄 事務局長 高畦 孝一	副会長・理事長 日下部 禧代子	世界連邦推進日本協議会会長 世界連邦運動協会会長 第76・77代内閣総理大臣 海部 俊樹
世界連邦運動協会 埼玉県支部	世界連邦運動協会 愛善京都支部長 小佐々 晴夫	世界連邦運動協会広島支部 本部副会長・支部長 城 忠彰 理事長 神川 正紀 副理事長 河本 浩一 副支部長 藤井 正一 副支部長・事務局長 森下 峯子	世界連邦運動協会神戸支部 支部長 池上 徹 事務局長 平岡五城	世界連邦運動協会 関東愛善会支部	京都・大阪府支部 支部長 税所 凉子 当支部では、今年も引き続き世界の恒久平和を築くために、大阪府内の小学校において、一人ひとりがこれからの世界平和について考える「出前・平和学習」を実施してまいります。 次世代を担う子どもたちのために！
世界連邦近畿フォーラム	世界連邦日本国会委員会 世界連邦日本国会委員会は、昨年十二月二十日に創設七十周年を迎えました。 政府が世界連邦実現に向けて最大限の努力をするよう、国内外の同志の皆さんとともに働きかけて参ります。	新型コロナウイルス大流行の対策における世界的協力体制の構築にもWFMは寄与いたします。 世界連邦運動協会石川県連合会 名誉会長 杉山 栄太郎 副会長 桑原 豊（会長代行） 副会長 上山 桂樹 理事長 平口 哲夫	世界連邦21世紀フォーラム支部 理事長 木戸 寛孝 副理事長 松田 創 事務局 柴田 修		

世界連邦運動協会 四国ブロック協議会 愛媛県 松山市部 〃 新居浜支部 高知県 高知支部 徳島県 徳島支部 香川県 香川支部	世界連邦運動協会富士宮支部 支部長 佐藤 隆夫 世界連邦加古川支部長 鹿多 証道 世界連邦本部・国際副理事長 人類共栄会会長 三宅 光雄		
大阪愛善会支部 支部長 伊藤 忠茂 商売繁盛・縁結び・合格祈願 千代保稲荷神社 〒503-0321 岐阜県海津市三郷1980 海津市宮バス海津羽鳥線 お千代保稲荷前バス停下車 バッグ・メダル・カップ・トロフィー・楯・旗・記念品 株式会社アキバ徽章販売 TEL 03-5491-5786 世界連邦日本仏教徒協議会 会長 叡南 覚範 理事長 可兒 光永 事務総長 水谷 栄寛 http://www.serenbutu.jp/	世界連邦日本宗教委員会 いま、一つの世界を 世界連邦宣言自治体全国協議会 会長 綾部市長 山崎 善也 世界連邦運動協会 豊中支部 支部長 星野 慎一 世界連邦運動協会執行理事 WFM国際理事 犬塚 直史 司法書士・税理士 黒澤合同事務所 東京都中野区中野四丁目四番十一号 電話 03-3388-9638		
世界連邦運動協会 武蔵野支部 支部長 榎本 重夫	有限会社 日本教育マネジメント 代表取締役 宮崎 太	綾部世界連邦運動協会 会長 鹿子木 旦夫  印刷金 株式会社 トーコー TEL 03-6416-5595 なぜか一番はしめにみでしまう 目を惹く広告作りませんか	

まだしばらくは厳しい暑さが続きます。
皆様のご健勝とご自愛をお祈り申し上げます。



あなたも世界連邦運動協会の会員になって一緒に活動してみませんか

入会希望の方は、郵送かFAXまたはEメールにて、住所・氏名・電話番号・メールアドレスを本部事務局へお知らせください。またEメールでお申し込みの場合は、件名に『入会申し込み』と明記してお送りください。

普通会員年額5,000円 維持会員年額10,000円 賛助会員年額15,000円



WORLD
FEDERALIST MOVEMENT
OF JAPAN

世界連邦運動協会 本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-2-17 赤坂中央マンション303

電話 (03) 6438-9442 FAX (03) 6438-9443

E-mail info@wfmjapan.org

世界連邦運動協会 2020 年度定例総会開催変更のお知らせ

新型コロナウイルスの感染状況ならびにその影響による会場確保の問題から、8月1日に東京で予定しておりました2020年度定例総会の開催を「書面総会」で実施することになりました。（東京の会場においての開催はございませんのでご注意ください。）
詳細はメールや郵送でご案内いたします。

第49回世界連邦推進全国小・中学生 ポスター・作文コンクール募集要綱

主催：世界連邦運動協会
後援：文部科学省(予定)・世界連邦宣言自治体全国協議会

◇目的

次代を担う小中学生に平和の尊さと人類の一員としての意識を深めさせ“人間みな家族”“世界はひとつ”の精神を培い、世界連邦について理解を深め、平和教育に資することを目的とします。

◇概要

1. 世界連邦運動協会の支部・支部連合会・各宣言自治体を単位とした地区ごとに募集します。また、インターネットを通して全国の小中学生によびかけます。
2. それぞれの地区にて審査および展示会を開催し、各地区における優秀作品の表彰を行います。
3. 地区での優秀作品は、本部でさらに審査の上、展示、全国表彰されます。
4. 応募作品は原則として返却しません。応募する前にポスターのデジカメ写真や、作文をコピーするなど各自保管して下さい。著作権は主催団体に属します。

◇応募作品の規定

〔ポスター〕 大きさ B3版(364mm×515mm)もしくは四つ切り
画用紙サイズ(392mm×542mm)
ポスターカラー、水彩、クレヨン、はり絵、ソフトペン、その他画材自由

〔作文〕 小学校児童 400字詰原稿用紙2枚以内(厳守)

中学生生徒 400字詰原稿用紙4枚以内(厳守)

※作文は薄くて読みづらい原稿は審査できませんので、濃い鉛筆で記入するようご指導ください。

〔明記する事項〕 制作年(○年○月・第49回)

応募単位(個人・学校・支部・その他)

生徒氏名(ふりがな必須)、性別、学年

学校名(○○市立等詳しく)、住所、TEL

◇テーマ

「世界はひとつ」「人類みな家族」「地球はみんなのもの」「みんな友達」「世界連邦をつくろう」「戦争をなくすために」「地球に恒久平和を」「地球環境の保全」「かけがえのない地球」「環境と平和」「私たちの地球を守ろう」「One World」など、平和や環境問題と世界連邦、あるいはこれらの趣旨にかなうテーマ。独創性あるテーマやモチーフを期待しております。

◇募集期間

2020年7月1日～9月30日

(地区の事情により若干変更されます)

◇展 示

地区表彰式・展示 2020年10月～12月

全国表彰式・展示 2021年2月予定

◇表 彰

地区表彰

入 賞 (ポスター・作文とも)若干名(全国審査該当)

佳 作 (ポスター・作文とも)若干名

全国表彰

文部科学大臣賞(ポスター・作文とも)各1名

特 賞 (ポスター・作文とも)各3名

湯川スミ賞 (ポスター・作文とも)各1名

入 賞 (ポスター・作文とも)各7名

佳 作 (ポスター・作文とも)各5名程度

※新型コロナウイルスの感染状況により全国表彰式・展示は中止になる可能性もございますのでご了承ください。また各支部におかれましては新型コロナウイルス対策に配慮の上、実施いただきますようお願いいたします。

〔問合せ先〕 世界連邦運動協会

E-mail : takeshi.noda@wfmjapan.com

〒107-0052

東京都港区赤坂7-2-17赤坂中央マンション303

電話:03-6438-9442 FAX:03-6438-9442

<http://www.wfmjapan.org/>

編集後記

☆新型コロナの収束の見込みも見えず、大雨による被害が各地で広がっており、何とも心が晴れない昨今です。最大限の対策は施して長期化への心構えをしたいと思います。皆さま、くれぐれもお身体ご自愛ください。(川口)

☆「国際連帯税」として非なる「国際観光旅客税」は観光基盤拡充のためにできたが、結局新型コロナが拡大して観光も大打撃を受けた。我々が主張するように感染症対策に用いた方が観光のためにもなったはずだ。(塩浜) ☆ WHO を世界連邦の創立に繋げるためには、国益にそぐわないことが WHO に生じたとしても、負担金を出さないとか、脱退するというような性急な手段をとるのではなく、WHO の在り方を正常化する忍耐強い取り組みを、各国はする必要があります。(平口)

編集委員会 / 委員長：川口美貴 副委員長：塩浜修・平口哲夫 委員：野田武志・谷本真邦